

令和2年度 花園第二こども園 自己評価分析と今後の課題

園内評価より	
I 保育の計画性	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度とほぼ同様に、「よくできている」「まあまあできている」がほとんどを占める。環境の構成については、すべての設問に対し、半数以上の職員が「よくできている」と回答。園内研修(DIY)を通して、環境の大切さに気が付いたようである。
II 保育の在り方、幼児への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもへの関わりは全体的に評価が高い。 ・その中でも「あまりできていない」評価をする職員に対しての個別フォローが必要である。
III 保育者としての資質や能力・良識・適性	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの職員が、保育者としてのマナーや義務の理解、組織の一員としての自覚は有と評価。
IV 保護者への対応・守秘義務	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね保護者への対応守秘義務についての評価は高い ・その中でも「あまりできていない」評価をする職員に対しての個別フォローが必要である。
V 地域の自然や社会との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々との挨拶などは「できている」と評価。 ・小学校との連携について評価がばらついており、担当する子どもの年齢によって興味関心を持つ度合いが変わってくるのが推察される。小学校との連携について全職員が興味を持てるような工夫が必要である。 ・今回、コロナ禍の影響で地域の福祉施設との交流事業が軒並み中止となったため、高齢者との交流についての評価が低くなっている。
VI 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・概ねできているという評価が多い。 ・環境構成にもつながるが、外部講師を招いての環境についての園内研修を重ねた結果、専門性に関する意欲態度が向上したようである。 ・保育の専門知識以外への関心が昨年より高い評価が多かった。
VII 保育の在り方、3歳未満児への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての項目において「できている」という評価が多くみられる。

利用者評価より	
★家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・園に意見や苦情を言いやすかったとする回答が昨年度より増加。しかし、一方で回答の傾向として「どちらともいえない」も増加。コロナ禍の中で、園内に入れず、送迎も玄関先になってしまったことも原因の一つと考えられる。 ・子育ての悩みについても保育者に相談できると回答した家庭が9割以上。保育者の自己評価とも一致する。
★カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> ・園の基本方針や保育方針に関して、「知っている」「少し知っている」との回答が9割。また、わが子が充実した園生活を過ごしていると感じている家庭も9割以上。 ・園が子どもの人権を守っており大切にしているという評価は9割を超え、園内の評価とも一致する。
★環境	<ul style="list-style-type: none"> ・園内の清掃環境、雰囲気に関しては高評価であるが、「どちらともいえない」という回答が例年に比べて目立つ。やはり園内に入れないことが影響しているようである。 ・保育者のコミュニケーションや言葉遣い、あいさつについても概ね評価が高いが、1割程度「時々気になる」「どちらともいえない」がみられる。こちらもコロナ禍での保護者と保育者とのやり取りが難しかったことに起因すると思われる。 ・保育者側が自己満足に終わることなく、利用者との関わりをもう一度園内で見直すことが必要である。

※令和2年度の利用者アンケートは、昨年度までアンケート用紙を配布・アンケートボックスで回収だったが、メール連絡網を使ったオンラインでの回答となった。回収率は今年度60%を超え、昨年度の49%よりもアップした。コロナ禍の中で、感染予防に留意しながら保育を続けていることに対し、感謝の念を持ってくれている保護者も多いようで、今回の評価の高さにつながったようである。